

雨音楽器

六年 藤村 佳菜

「ポツッ、ピチッ、ポタン、ピチヨン」

雨上がりの時、屋根から落ちてくる雨水の音は似ていてもわずかに違いがあります。人間に色々な個性があるように雨水の音にも個性があるように聞こえます。雨水によって生じる音の違いに私は注目してみました。

まず、水と音というキーワードから頭に思い浮かんだのは、よく日本庭園にある「ししおどし」です。「コーン」という竹筒が石を叩く澄んだ音は清涼感があり、すがすがしい気分にならせてくれます。「ししおどし」は、本来、鳥獣を追い払うための音を出すものであったのが、その音を楽しむものになったそうです。どういう使い方であれ、水を上手に使って音を出す道具を作り上げて、この水に水道水ではなく、ためた雨水を活用すると良いのではないかと思います。

次にあるテーマで小さな実験をしてみました

た。すると、同じ容器に違う量の水を入れ、それぞれに水を垂らすと音の高低差があることが分かりました。そこで、それを生かす楽器を考えてみました。落とす水の量、また水を落とす高さ、落とすタイミングを見計らい、受ける容器の中の水の量を変え、並べ方を工夫すると一つの楽器が出来上がるのではないのでしょうか。この水に雨水を使うのです。雨だれのような優しい音が奏でる曲を聞くことができ、ほっとする時間が持てるのではないのでしょうか。

もちろん雨水は浄水場を通過して、私達の生活で使われる水として身近にあります。しかし、飲み水としてのどきつるおすだけでなく、家庭でためた雨水も工夫して活用することによって、心にうるおいを与えてくれるのではないのでしょうか。